



対象 犬・猫	手術時間 90～180 分	入院 3～7 泊	麻酔 全身麻酔（片肺換気）
-----------	------------------	-------------	------------------

■ どんな手術？

病変のある肺葉を切除する胸部の手術です。肺腫瘍・肺膿瘍・肺嚢胞（肺ブラ）・重い肺炎などに対して行います。犬猫は複数の肺葉を持つため、1～2 葉を切除しても残った肺が呼吸機能を補います。手術前に CT で病変の位置や転移を確認したうえで、手術の計画を立てます。

■ この手術が必要なとき

- ・肺腫瘍（原発性・転移性）
- ・抗菌薬に反応しない肺膿瘍・壊疽性肺炎
- ・気胸を繰り返す原因となる肺嚢胞
- ・重い慢性の肺感染症

■ 手術の流れ

- ① CT 検査で病変の位置と転移の有無を評価します（術前）
- ② 全身麻酔をかけ、必要に応じて片肺換気を行います
- ③ 横向きに固定し、肋間または胸骨を切開します
- ④ 患側の肺葉を確認し、血管・気管支を結紮・切断します
- ⑤ 病変のある肺葉を摘出し、気管支の断端を縫合します
- ⑥ 胸腔ドレーンを留置し、閉胸して終了します

■ 麻酔について

全身麻酔で行います。手術前に血液検査などで全身状態を確認し、麻酔のリスクを評価したうえで実施します。手術中はモニターで呼吸と循環を継続的に管理します。肺の手術では、必要に応じて片肺換気（片側の肺を一時的に虚脱させて手術空間を確保する方法）を行います。

■ 入院・退院の目安

術後 3～7 泊は胸腔ドレーンの管理と酸素補助・疼痛管理を行います。ドレーンが安定して抜去できたら退院です。

■ 術後のケア

- ・退院後は 4～6 週間ほど安静に過ごします
- ・定期的に胸部 X 線で再発や肺の状態を確認します
- ・腫瘍の場合は病理結果に基づいて追加治療を検討します

■ 起こりうるリスク・合併症

- ・ 出血
- ・ 気管支断端の縫合不全・気漏（エアリーク）
- ・ 術後の呼吸不全
- ・ 感染（膿胸）
- ・ 転移腫瘍の場合：再発

■ よくある質問

Q. 肺を切っても呼吸は大丈夫ですか？

A. 犬猫は7つの肺葉を持ちます。1〜2葉の切除は残った肺が補いますが、術後に軽い運動耐性の低下が生じることがあります。

Q. 転移があっても手術しますか？

A. 転移の程度や病変の性質によります。孤立した転移の切除が有益な症例もあります。個別に判断します。

Q. 術後の入院はどのくらいですか？

A. 胸腔ドレーンが安定するまで3〜7日程度です。ドレーンを抜いてから退院できます。

■ なつ動物病院での対応について

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください